

# 中学校 第2学年 国語科 学習指導案

北海道幌延町立幌延中学校  
教諭 菊川 大

**単元名** 『タオル』(5時間)

**単元のねらい**

- 文学的な表現を通じて語感を磨き、語彙を豊かにする。
- 登場人物の設定の仕方や人物どうしの関係を捉える。

**本時のねらい** 登場人物どうしの関わりから人物像を捉えることができる。(第2時)

**指導時期** 4月上旬

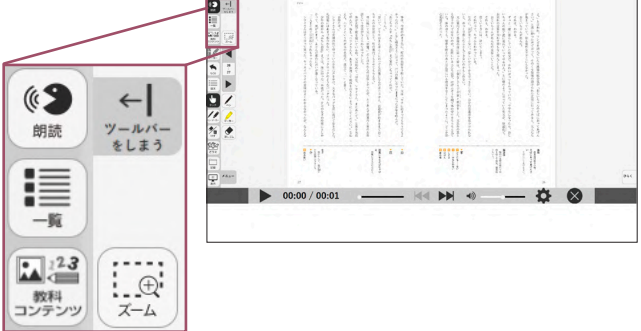
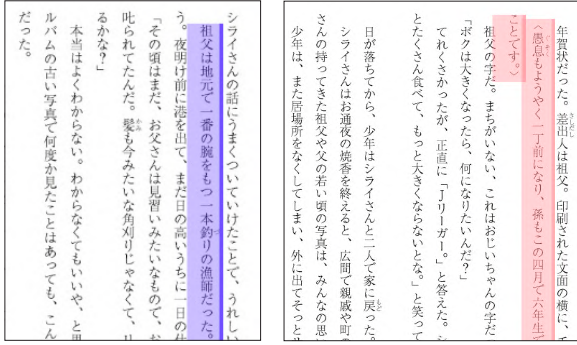
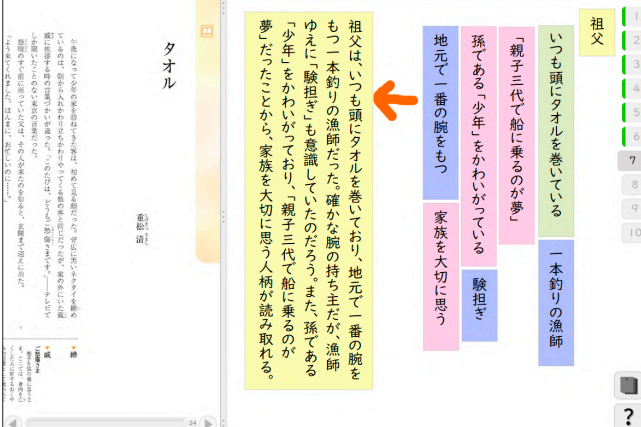
## 指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

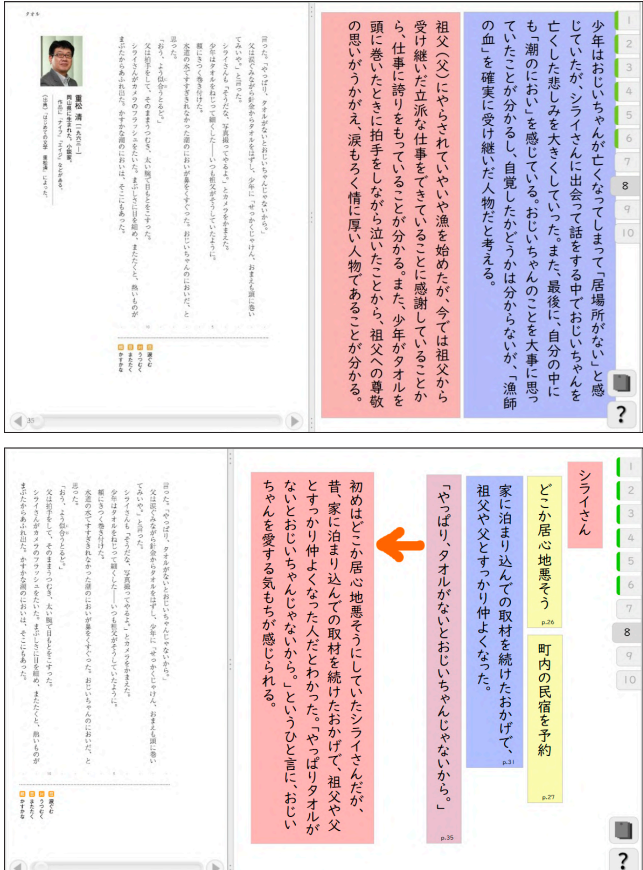
本単元は、主人公である「少年」が、東京から来た「シライさん」との交流を中心として、祖父の死を内面化させていく教材である。中学校2年になって生徒が初めて出会う文学的な文章であり、内容は理解しやすいものである。語り方においては、基本的に三人称を用いている。このことで、時おり「少年」の内面に入り込むことによって、少年の心情に寄り添う語りを用いている。このことによって、「少年」の祖父の死に対する気持ちの変容を的確に解釈することができる。

「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで、本単元の特徴の一つである「港町の方言」について、教師の範読では再現が難しかった部分も、「朗読」によって補うことができると考えられる。また、「国語マーカー」や「デジタルメモ」を活用することで、登場人物ごとに色分けをして、考え方や生き方がわかる部分に線を引きたりメモを書いたりして、全員で視覚的に共有することができる。生徒は紙の教科書に書き込んだり、ノートに意見を書いたりすることになるが、クラス内の意見を共有する手段として、「指導者用デジタル教科書(教材)」は有効であると考えられる。

## 本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時を振り返ったうえで、本時の学習課題を把握する。</li> </ul>	<p data-bbox="427 304 1279 338" style="text-align: center;">「祖父の死」を通して見える登場人物の人物像を捉えてまとめよう。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「少年」と「シライさん」のやりとりからわかる「祖父」の人物像をまとめる。</li> <li>● 該当部分の朗読を聞く。</li> <li>● 人物像がわかる箇所を探し、教科書に線を引く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 線を引いた部分をもとに、「祖父」の人物像について全体で交流する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流した内容をもとに、祖父の人物像をまとめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「祖父」の人物像のまとめ方を参考にして、「少年」か「父」のいずれかを選択して人物像をまとめる。</li> <li>● 人物像がわかる箇所を探し、教科書に線を引く。</li> <li>● 線を引いた部分を全体で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「朗読」を活用する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「国語マーカー」を活用する。</li> <li>● 祖父の人物像がわかる言葉や行動を交流する際にマーカーを用いて提示する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「デジタルメモ」を活用する。</li> <li>● 交流した内容をもとに、祖父の人物像をまとめる。この後の活動につながるよう、手本となるまとめ方を「デジタルメモ」で示す。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●線を引いた箇所をもとに、少年または父の人物像をまとめる。</li> <li>●まとめたものを交流・発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「デジタルメモ」を活用する。</li> <li>●生徒の発表をもとに、人物像を「デジタルメモ」にまとめる。その際、生徒の理解の実態などに応じて、人物ごとに区別できるよう色分けをしたり（上）、人物像を捉える視点に応じて色分けをしたり（下）することが考えられる。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の振り返りを行う</li> <li>●本時の学習を通しての気づきや交流を通して考えたことなどをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「デジタルメモ」を提示しておくことで、自分のまとめと比較し、共通点や相違点に気づけるようにする。</li> </ul>

## 指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られる効果

「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで、生徒の考えを可視化し、それを全体で共有することが可能となる。また、色分けをすることによって、どの登場人物に関わる記述であるか(または、どの視点に基づく記述なのか)が把握しやすくなり、根拠となる記述も見つけやすくなると考える。

「朗読」については、特に本単元のような「方言」を用いた教材においては、有効に活用できるのではないだろうか。また、古典における歴史的仮名遣いなどの授業においても、視覚と聴覚の両方で認識することができるため、そうした可能性をもったツールであるといえる。

「国語マーカー」や「デジタルメモ」については、人物ごと(または視点ごと)に色をリンクさせることにより、生徒の考えと、その根拠となる教科書の記述を容易に結びつけることができると思われる。また、教科書本文の抜き出しが容易となり、今回のような文学的文章に限らず、説明的な文章においても意見と根拠をわかりやすく提示することなど、さまざまな使い方ができると思われる。さらに、板書にかかる時間を短縮し、机間指導に費やすことができる時間も増えるのではないだろうか。

これからの時代は、自分で課題を発見し、自己調整を図りながらその解決に向かう力が求められる。生徒には、他者と協働する中で考えを広め、深化させ、創造的に問題を解決する力を育むことが重要である。さまざまな意見や考えがあることを知り、提示された情報を取捨選択しながら自分の考えを形成していくという点において、「デジタルメモ」をはじめとした、「指導者用デジタル教科書(教材)」のさまざまなツールが効果的に活用できるものと考えられる。